

徳島県中学校基礎学力テスト(2年社会)5力年徹底分析レポート

【対象期間：令和2年度～令和6年度】

徳島県の2年生社会科・基礎学力テストは、地理50点、歴史50点の完全なバランス配分を維持しつつ、学習指導要領が掲げる「現代社会の諸課題を多角的に考察する力」を問う試験です。5年間のデータを精査した結果、出題ターゲットの明確な規則性と、得点を左右する「記述の急所」が判明しました。

1. 5年間の全体傾向と配点構造

分野	配点	主な出題内容	特徴
地理分野	50点	世界地理(時差・気候・各州)、日本地理(各地方・地域調査)	地図、雨温図、統計グラフの読解が必須。
歴史分野	50点	古代～近代(明治・大正初期まで)	外交関係(日本と世界)と、社会・文化の関連性。

【特記事項：令和2年度の分析】

令和2年度は、世界地理において「北アメリカ(ロサンゼルス)」を基点とした時差計算や、産業革命に端を発する社会問題(資本主義と社会主義)が出題されました。これは、単なる暗記ではなく「歴史の流れが現代にどう繋がっているか」を問う、徳島県らしい出題です。

2. 5年間の累積データから見える「鉄則」

① 日本地理：地域ローテーションの完全解明

徳島県は、日本地理の大問において、毎年異なる地方をメインテーマに設定しています。

- R2: 関東地方(都市問題)
- R3: 関東地方(再開発)・オセアニア
- R4: 中部・九州地方
- R5: 北海道・東北地方
- R6: 中国・四国地方

【戦略】過去5年で単独の深掘りが少ない**「近畿地方」や、再度周期が回る「関東地方」**が次回の最重点警戒地域となります。

②世界地理:時差と気候グラフは「満点」が前提

5力年すべてにおいて、以下のスキルが必須となっています。

- 時差計算: 到着時刻を求めさせるR2の形式は難易度が高い。「15度=1時間」に加え、日付変更線の処理を完璧にすること。
- 雨温図の特定: 「地中海性気候(夏に乾燥)」「熱帯雨林(年中高温多湿)」「西岸海洋性(年較差小)」の3つは頻出。

③歴史:外交(対外関係)のリンクが合否を分ける

日本の歴史上の出来事を、世界の情勢と結びつける問題が頻出です。

- R2: 鎖国下のオランダ貿易(長崎・出島)。
- R3: 大日本帝国憲法とドイツ(プロイセン)の君主権。
- R6: 遣唐使廃止と唐の国内情勢の乱れ。
- 記述対策: 「～という背景があったため」という理由説明の型を5年分ストックすることが不可欠です。

3. 分析官が選ぶ「5力年・重要記述テンプレート」

徳島県の採点基準に適合する、覚えておくべきキーワード群です。

1. 【地理】アフリカの国境線:「かつて植民地として支配していたヨーロッパ諸国が、人為的に境界を引いたため。」
2. 【地理】瀬戸内の気候:「北の中国山地と南の四国山地に季節風が遮られ、年間を通じて雨が少ないため。」
3. 【歴史】元寇の戦い方:「元軍は火薬を用いた武器(てつはう)を使い、集団戦で攻めてきたため。」
4. 【歴史】南蛮貿易と改宗:「キリスト教大名は、貿易による経済的利益や武器の入手を目的としていたため。」

4. 2月テストに向けた最終戦略

1. 統計グラフの「最大値」に注目せよ: 工業地域(京葉=化学、阪神=金属)や、農産物(青森=りんご、宮崎=ピーマン)など、グラフの1位を見て地域を即断する訓練。
2. 写真資料の時代判定: 寝殿造、金剛力士像、銀閣、鹿鳴館。これらを見て瞬時に「平安・鎌倉・室町・明治」と分類できるようにする。
3. 徳島に関連する地理: 四国地方の高速道路網や、近郊農業(すだち、れんこん等)の知識は、地域調査の大問で加点要素になります。

分析官(予備校講師)より:

社会科は「暗記の量」ではなく「情報の繋げ方」を競う教科です。R2のマルクスの問題のように、歴史の知識が政治や経済の理解にどう繋がるか。この「縦(歴史)と横(地理・公民)」の視点を持つことで、偏差値は飛躍的に向上します。5年分の過去問は、その視点を養うための最高のテキストです。